かごしま茶通信

公益社団法人 鹿児島県茶業会議所
鹿児島市南栄3丁目12
TEL(099)267-6063
FAX(099)267-6957
http://www.ocha-kagoshima.jp
発行責任者
会頭　柚木弘文

かごしま茶新春初取引会開催

1月6日、かごしま茶流通センターで、恒例の新春初取引会を開催いたしました。今年は、新型コロナウイルスの感染防止のために参加者人数を大幅に制限した中での開催となり、約100名の茶業関係者が参集しました。

当日は、柚木茶業会議所会頭、満薗県農政部長、坂元茶生産協会長のあいさつの後、澤田茶商業協同組合理事長の手締めで、今年のかごしま茶の盛況を祈念しました。

年頭のごあいさつ

公益社団法人 鹿児島県茶業会議所
会頭 柚木弘文

新年あけましておめでとうございます。

茶業関係者の皆様には、新春を迎え、この新しい年に大いなる期待と希望を託されたことと、お察し申し上げます。

また、皆様方には、かねてから鹿児島県茶業会議所の業務運営に対しまして、格別の御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの発生により、人の移動制限など国内外の経済活動が抑制され、多くの業種で厳しい状況となりました。茶業界におきましても、新茶の時期はもとより年間を通じて試飲・販売イベントの開催が出来ない状況が続き、前例のない非常に厳しい生産・流通・販売環境となりました。一刻も早く、新型コロナウイルスが収束し、通常の生産・流通・販売環境となることを強く願っております。

さて、鹿児島県の茶業は、生産者の意欲的な取組と関係機関・団体の御支援により、荒茶生産量の全国シェアは約３分の１で、年々拡大しています。

また、昨年本県で開催された全国茶品評会において、17年連続となる産地賞や農林水産大臣賞をはじめ特別賞を多数受賞するなど、品質面においても「かごしま茶」が全国トップレベルであることを改めて全国に発信することができました。

さらに、品種も豊富で、全国トップクラスの有機栽培面積を誇るなど、様々な消費者ニーズに対応できる体制を整えているところです。

こうした取組により、国内外の茶業関係者からの「かごしま茶」への期待は、ますます高まっております。

これもひとえに、安心・安全でクリーンな「かごしま茶」の生産・流通に携わっておられる関係の皆様の御努力の賜物であり、改めて敬意を表します。

お茶は、日本人の食生活には欠かせない身近な飲み物として、暮らしの中に深く根づき、おもてなしの心を育む文化としても発展してきました。

引き続き、本県の有利性を生かしながら、安心・安全で高品質な茶生産とともに茶の機能性の発信と合わせた販売に努める必要があります。

また、コロナ禍の中、ライフスタイルが変化し多様化しています。これに合わせた商品開発やお茶の飲み方・楽しみ方の提案など新たな視点で消費者にアプローチする取組も大事です。

茶業会議所では、コロナ後の社会様式等を注視しながら、関係機関・団体と連携して、「かごしま茶」の魅力や特長を前面に出したＰＲを行い、「かごしま茶」の知名度向上と消費拡大に取り組んでまいります。これらは、本県茶業界あげて取り組む必要がありますので皆様のさらなる御理解・御協力をお願いいたします。

最後に、今年のお茶が気象災害を受けることなく順調に生産され、活発な取引がなされるとともに、茶業に携わる皆様のますますの御健勝と御活躍を祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。

年頭のごあいさつ

鹿児島県農政部
部長　満園秀彦

令和３年の年頭に当たり、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

皆様には、日頃から茶業振興を通じ、本県農業の発展に多大な御貢献をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、令和２年産の取引状況を振り返りますと、近年の価格低迷に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による需要の減少等により、例年以上に大変厳しい年となりました。

令和２年の茶栽培面積は、全国が39,100haと前年から1,500ha減少する中、本県においては、ほぼ前年度並みの面積である8,360haを維持しており、荒茶生産量の全国シェアは年々拡大傾向にあります。また、乗用型摘採機などの機械化や有機栽培茶など需要に対応した茶づくりは、全国一の取組となっております。

さらに、昨年は、９年ぶりに本県で「全国茶品評会」が開催され、南九州市が「普通煎茶10kgの部」で個人賞１位の農林水産大臣賞を、団体でも１位の産地賞を受賞し、鹿児島県勢としては17年連続での産地賞の受賞となりました。その他、深蒸し煎茶・かぶせ茶・釜炒り茶の部でも上位入賞を果たすなど、「かごしま茶」の品質の高さを改めてアピールすることができました。

これもひとえに、日頃から高品質な「かごしま茶」を生産されている、生産者をはじめ、関係の皆様方のたゆまぬ御努力の賜物と考えております。

県といたしましては、『「かごしま茶」未来創造プラン』に基づき、本県茶業が有する強みや潜在力（ポテンシャル）を生かし、「儲かる茶業経営の実現」に向けて、今年も高収益な品種への転換や抹茶や紅茶・ドリンク原料など多様なニーズに応じた茶づくり、国際水準ＧＡＰや有機ＪＡＳ等第三者認証取得、スマート農業実践化による省力化、輸出促進へ向けた生産・販路開拓支援など各般の施策を関係機関・団体一体となって積極的に推進し、「かごしま茶」が日本一の茶産地となるよう、さらなる茶業振興に取り組むこととしています。

特に、コロナ禍での令和３年産「かごしま茶」の国内外における販路拡大を図るため、県内茶商が行う首都圏等での営業活動や「かごしま茶販売協力店」が行う消費拡大のためのイベントの開催への支援、輸出に意欲的な県内茶商や生産者への支援を行うこととしておりますので、皆様の御理解・御協力をお願いいたします。

本年が「かごしま茶」にとりまして、大きな飛躍の年になりますよう、また、皆様方の御健勝、御多幸を心から御祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

年頭のごあいさつ

一般社団法人 鹿児島県茶生産協会
会長　坂元 修一郎

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

さて、昨年は大きな気象災害もなく順調に生育し、品質面においては良質な茶の生産となりましたが、全国で新茶が出回る時期に、新型コロナウイルスの感染拡大により、県内外での新茶イベント等の催事が軒並み中止となり、本年の一番茶は記録的な安値となりました。

さらに、オリンピック・パラリンピックの延期等によりドリンク原料の需要も弱く、二・三番茶においても一部で加工原価割れとなるなど、過去に無い厳しい価格となり、我々生産者にとりましては、大変厳しい１年でありました。

そのような中で、９年ぶりに本県開催となった第74回全国お茶まつりについては、本大会が始まって以来の開催中止となりましたが、感染予防対策を徹底して開催した全国茶品評会では、普通煎茶10kgの部において、本県が17年連続で産地賞を受賞するとともに、個人の部においても農林水産大臣賞をはじめとする多数の特別賞を受賞するなど、本県産茶の素晴らしさをあらためてアピールすることができました。

一方、国内の茶の消費量は、若者のリーフ茶離れや消費者の簡便志向等により減少傾向が続いており、引き続き生産面及び国内外での消費拡大を図ることが重要となっています。

生産面におきましては、茶園平坦率が高く大型機械の導入による省力化、経営規模の拡大や法人化など、足腰の強い経営体が育成されていますので、今後も本県ならではの特色を最大限に生かしながら、安全・安心な茶づくりを基本にして、今後とも良質茶の生産や更なるコストの低減、生産性の向上などに、関係機関・団体と一体となって、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

また、販売面におきましては、多くの本協会会員の皆様方が、輸出に対応した有機栽培茶などの茶の生産に取り組んでおられますが、更なるお茶の消費拡大と付加価値向上を図るため、輸出支援はもとより、健康面からのお茶の機能性について、関係機関や大学と連携した機能性分析・評価に向けた取組を強化し、抗酸化作用があるカテキンやリラックス効果があると言われるテアニンなど、お茶に含まれる機能性を前面に出したＰＲ活動や情報発信等に取り組んでまいりたいと考えております。

さらに、茶業会議所と連携し、「かごしま茶」の認知度向上と消費拡大を図るため、引き続き県内外での「かごしま百円茶屋」の実施や、あらゆる広報媒体を活用したＰＲ活動を行ってまいりますので、皆様方の御支援･御協力をお願いいたします。

結びに、本年が茶の生育に恵まれ、販売においてもよい年となりますよう、また、皆様にとりまして実り多い年となりますよう、お祈り申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

鹿児島県茶商業協同組合
理事長　澤田了三

明けましておめでとうございます。

茶業関係の皆様方には、新年を迎えいかがお過ごしでしょうか。

昨年は、誰しも経験したことのない「新型コロナウイルス」が年初から感染拡大し、未だに世界各国に蔓延して終息の兆しさえ見えない状況にあります。

ただし、各国でワクチン開発が進んでおり、早い時期の効果が表れることが期待されています。

このような状況下、感染者の増加で前年まで順調に増加の一途を辿っていた外国からの観光客も激減したり、「東京オリンピック」の中止等で景気も一気に冷え込んでしまいました。鹿児島県内においても、「かごしま国体」や「全国お茶まつり」を始め各種イベントが中止されました。

また、県内茶業界においても「新型コロナウイルス」の影響が諸に現れ、取引価格もこれまでより大幅な落ち込みとなりました。特に、県境をまたぐ移動の制限やマスクの着用・手洗いの徹底の日常化等により、新茶の取引開始時期から制約が多く年間を通して低調な取引に終わったようです。このような状況は、昨年の鹿児島県茶市場の取引実績にも反映して取扱量も落ち込みましたが、荒茶取引全体の年間平均単価は１キロ当り801円と46年ぶりの安値を記録しました。

イベントや販売会の中止による制約の多いなか、組合員各社ではネット販売に力を注いだり、新しい商品開発やマスメディアを使った販売戦略を模索する動きもありました。

当組合の今年の取り組み策としては、「新型コロナウイルス」の感染状況を注視しながら、従来から実施している県内外での販売会や共販事業の他に春と秋の鹿児島中央駅前で開催される「お茶まつり」への出店や小学生向け「お茶の淹れ方教室」・「Ｔ－１グランプリ」の実施、さらにネット販売に力を注ぎ「かごしま茶」の新たなファン開拓に努め業績アップを目指します。

しかし、従来からの取り組みの延長だけでは、厳しい状況からの脱出は困難が予想されます。今後は、行政や生産者・茶商が一体となって取り組むことはもちろん、報道関係や他の業態とも連携した広報活動や販売戦略等により、新たな国内外の消費者の開拓に努め、売り上げ増加に繋げてまいります。

県内では、昨年の県知事及び鹿児島市長選において、いずれも若い新人が当選し、新しい発想で明るい未来の形成に取り組んでいかれることが期待されています。

我々茶業界においても、青年団を中心に固定観念にとらわれない企画力で、新しい客層の開拓に取り組んでもらいたいと考えます。

今年１年、茶業界に係わる皆様方のご健勝とご多幸を祈念し、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

流通情勢

令和2年産実績と令和3年産の情勢

ＪＡ県経済連 茶事業部

1．令和２年産茶の取扱概況（県茶市場）

生産面においては、一番茶は、気象災害等の被害もなく順調に生育したが、４月が昨年を下回る気温で推移したことから品種間差、産地間差が見られ芽を追った生産となり、前年と比較すると減産となった。

夏茶以降は、オリンピック延期によるドリンク需要の低下により引き合いは弱く、生産を中止した工場も見られたことと、県茶市場売（買）参人組合より県茶生産協会へ、三番茶の生産自粛の意見書が提出され、これらの対応のため各産地で中切り更新がなされ、出回り量は減少した。

秋冬番茶においても、一部でドリンク原料用やほうじ茶用の需要がみられたものの、前茶期の相場の影響と在庫状況の影響もあり、厳しかった前年以上の軟調相場となり、減産となった。

販売面においては、コロナ禍により営業自粛や新茶催事等が開催できず、販売店舗での試飲販売等による対面式の販売を行うことができなかったことや、時期によっては、やむを得ず、一時休業せざるを得ない状況にもなり、先行き不透明感が強かったため、特に下物を中心に価格が続落し、厳しい相場展開となった。また、不要の外出禁止による巣篭もり状態の中においては、通販や量販店での緑茶の需要は高まったものの、新茶販売をカバーできる程ではなかった。

さらに、ゴールデンウィークや夏休み等の長期休暇期間中のイベント等が相次いで中止となり、オリンピック、パラリンピック、国体の延期や海外からの渡航者の足止め、県をまたぐ移動の自粛等により、期待されていたインバウンド需要やドリンク需要が予想を大きく下回った。

これらのことにより、緑茶の販売店舗、または茶問屋間においても、先行き不透明感が漂い、各県の茶市場、取引所においても、積極的な仕入れや取引が行なわれなかった。また、県をまたぐ移動を自粛したことから、取引もリモート形式になる等、取引形態が大きく変化し、さまざまな商品における消費者の購入形態においても店舗での購入が減少し、通信販売型の取引が伸びてきており、業界における通信販売の取組等、取引形態の変化が問われる年となった。

県茶市場の取扱いは、数量10,588トン（前年対比73％）、平均単価801円（前年対比96％）となり、

令和２年産茶取扱実績表　　（単位：t、円、％）

茶期	区分	令和2年度 本茶	令和2年度 番茶	令和2年度 出物	令和2年度 合計	令和元年度 本茶	令和元年度 番茶	令和元年度 出物	令和元年度 合計	前年対比 本茶	前年対比 番茶	前年対比 出物	前年対比 合計
1番茶	数量	3,333	975	352	4,660	3,504	970	356	4,830	95	101	99	96
	平均単価	1,621	656	650	1,346	1,865	798	858	1,576	87	82	76	85
2番茶	数量	2,730	85	380	3,195	3,491	333	448	4,272	78	26	85	75
	平均単価	494	166	217	452	662	348	387	609	75	48	56	74
3番茶	数量	625	80	50	755	2,026	451	136	2,613	31	18	37	29
	平均単価	337	292	158	320	358	300	258	343	94	97	61	93
4番茶	数量	159	44	7	210	173	122	5	300	92	36	140	93
	平均単価	368	294	169	346	352	280	265	321	105	105	64	70
秋冬番茶	数量	－	1,732	37	1,769	－	2,281	22	2,304	－	75	168	76
	平均単価	－	260	87	256	－	278	161	277	－	93	54	92
合計	数量	6,847	2,916	826	10,588	9,194	4,157	967	14,319	74	70	85	73
	平均単価	1,025	391	392	801	1,048	407	537	827	98	96	72	96

※ラウンドにより合計が一致しない場合がある。

数量では、夏茶の生産減により大幅減となった。平均単価は、四番茶を除き、各茶期で前年を下回る取引となったが、一番茶の比率が高まったことにより、全体の平均単価は昨年並みとなった。生産面においては、取引における引き合いが弱かったことから、全国の主要茶産地は各産地とも生産を控え、生産量は減少するものと思われる。本県においても、生産自粛により、三番茶を中心に生産量は大きく減少し、令和２年産の荒茶生産量は昨年を大きく下回ることは確実である。

2、生産動向

(1) 茶栽培面積

全国の茶栽培面積は、39,100haで、前年に比べ1,500ha(4%)減少した。主に高齢化による労働力不足により廃園等が増え、傾斜地を中心とし、栽培面積の減少がすすんでいる。減少幅の一番大きい東海地区では、静岡県が700ha、三重県が70ha、愛知県が17ha、他3haで、東海地区全体では、前年に比べ800ha(4%)減少している。次に減少幅の大きい地区は、九州地区であり、熊本県、宮崎県が各50ha、佐賀県44ha、鹿児島県40ha、長崎県12ha、他4haと九州地区全体では、前年に比べ200ha(1%)減少している。

・茶栽培面積推移（農林水産省統計より県抜粋）　（単位:ha）

県　名	R２	R１	H30	R１差異	H30差異
埼　玉	825	843	855	△18	△30
静　岡	15,200	15,900	16,500	△700	△1,300
愛　知	500	517	521	△17	△21
三　重	2,710	2,780	2,880	△70	△170
京　都	1,560	1,560	1,570	0	△10
福　岡	1,540	1,540	1,540	0	0
佐　賀	705	749	795	△44	△90
長　崎	725	737	742	△12	△17
熊　本	1,170	1,220	1,260	△50	△90
宮　崎	1,330	1,380	1,390	△50	△60
鹿児島	8,360	8,400	8,410	△40	△50
他	4,475	4,974	5,037	△499	△562
全　国	39,100	40,600	41,500	△1,500	△2,400

(2) 一番茶の荒茶生産量

主産５府県における一番茶の荒茶生産量については、大きな気象災害は見られなかったものの、静岡県では、４月下旬から５月上旬に、雨不足と低温が続き、新芽の成長が抑えられたこと等により前年に比べ、1,580トン減少し、また、各県の栽培面積の減少により、21,200トンと減産となり、前年産に比べて△2,300トン(10%)減少した。

また、本県の一番茶の荒茶生産量は、8,010トン（前年比96%、△260tの減）となった。

・一番茶の荒茶生産量推移（農林水産省統計より主産５府県）　（単位:t）

県　名	R２	R１	H30	R1差異	H30差異
埼　玉	440	449	477	△9	△37
静　岡	9,420	11,000	12,700	△1,580	△3,280
三　重	2,090	2,480	2,790	△390	△700
京　都	1,250	1,310	1,420	△60	△170
鹿児島	8,010	8,270	8,770	△260	△760
主産県計	21,200	23,500	26,200	△2,300	△5,000

3．輸出入動向

(1) 輸入量…コロナ禍により、輸入の約８割を占める中国を中心に輸入量が減少しており、輸出入が再開した月には、輸入が増加した国もみられたが、全体には前年を下回る輸入量が見込まれる。国内志向や国内価格の低下等により、国内産への利用傾向にあるが、ここ数年は国内大手メーカーによる海外での生産も本格化し、オーストラリアやベトナムからの入荷量が一定量みられ、また、品質も向上している。

令和２年は10月末現在。【輸入量3,385トン（前年同期比90%、前年同期差383トン減）】

緑茶の輸入量（財務省貿易統計より）　（単位:トン）

国　名	H28	H29	H30	R1	R2.10月末
中　国	3,087	3,319	3,918	3,669	2,932
オーストラリア	301	328	277	247	206
ベトナム	111	158	343	280	158
その他	119	165	191	193	89
計	3,618	3,970	4,729	4,389	3,358

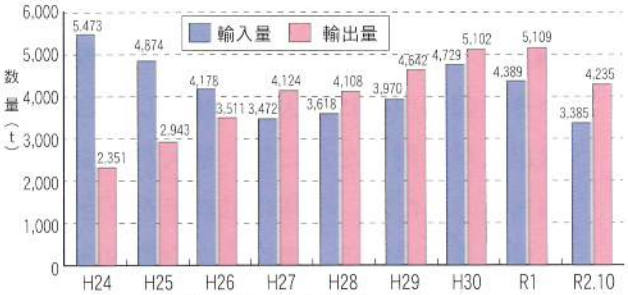
(2) 輸出量…輸入同様、コロナ禍により、３月から６月の取扱量は前年を下回ったものの、７

月から回復し、10月末実績で前年同期を上回る実績となっている。ここ近年アメリカ、台湾のシェアが全体輸出量の半分以上を占めている。また、アメリカ、ドイツでは4,000円前後、台湾では1,000円前後の茶が中心に取引されている。また、アメリカでは粉末状（抹茶や粉末茶）での輸出割合が高まっており、ドイツ、台湾ではリーフ茶の割合が高い。

令和２年は10月末現在。【輸出量4,235トン（前年同期比104%、前年同期差168トン増）】

・緑茶の輸出量（財務省貿易統計より）　（単位：トン）

国　名	H28	H29	H30	R1	R2.10月末
アメリカ	1,419	1,407	1,594	1,485	1,532
台湾	792	1,079	1,217	1,389	1,171
ドイツ	319	341	373	346	244
シンガポール	341	343	307	324	182
タイ	101	144	160	125	151
カナダ	179	189	206	162	125
その他	956	1,135	1,247	1,278	830
計	4,107	4,638	5,104	5,109	4,235

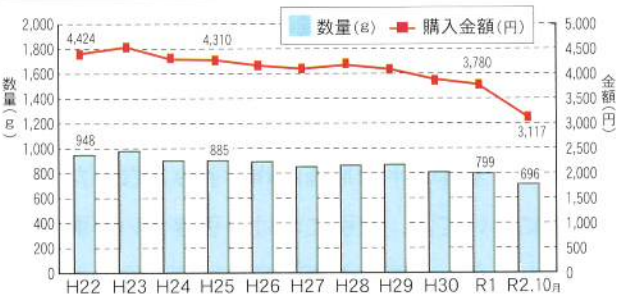


・緑茶の輸出入量推移　（財務省貿易統計より）

4．緑茶の消費動向

(1) 一世帯あたり購入数量・支出金額

一世帯あたりの緑茶購入数量・支出金額については、数量・金額ともに緩やかに減少し、平成30年には年間購入量が800gを下回り、金額においても4,000円を下回っている。小売専門店が減少し、量販店や通販等による購入が、増加傾向となっている。令和２年は、コロナ禍のなか、巣篭もりによる家庭内需要が増加したことにより、10月末現在、購入量696g（前年同期比107%、前年同期差49g増）、支出金額3，117円（前年同期比102%、前年同期差73円増）となっている。



・一世帯あたり購入数量・支出金額（総務省家計調査より）

(2) 市町別一世帯当たりの緑茶購入量

市町別一世帯当たりの緑茶購入量については、二年前は、鹿児島市が1位の購入量であったが、購入数量は減少傾向となっており二年前の1，554gから386g減の1，168gで、全国5位の購入量となっている。

・市町別一世帯当たりの緑茶購入量（H29～R1の平均購入量）

順位	市	購入量	順位	市	購入量
1位	静岡市	1,929g	6位	大津市	1,146g
2位	浜松市	1,286g	7位	金沢市	1,111g
3位	津市	1,277g	8位	京都市	1,079g
4位	長崎市	1,206g	9位	奈良市	1,005g
5位	鹿児島市	1,168g	全国平均		813g

※総務省家計調査（品目別：都道府県庁所在市及び政令指定都市）

(3) 緑茶ドリンクの年次別生産量

ドリンク市場では、消費者の無糖傾向や新商品、リニューアル品の活性化が寄与し、前年並みの生産量となっている。各社、緑茶に加え、ほうじ茶等に力を入れ、若者やカフェインを気にする層を中心にほうじ茶ブームとなっている。本年においては前年の季節毎のパッケージングや期間限定販売に加え、緑茶でのカフェインレス商品が発売されるなど、更なるリニューアルを加えたメーカーの伸び率が目立ち、幅広い味覚や嗜好商品の発売が増えている。

・緑茶ドリンクの年次別生産量（日刊経済通信社調）

5．最近の動向

(1)「かごしま茶」統一販売会(11/18～20)

令和２年度の統一販売会は、コロナ禍により、東京会場での開催が中止となった。また、京都会場では国内外からの旅行者が激減し、特にインバウンド需要が減少したことが、大きく影響したことにより、販売数量が約６割となった。しかしながら、全体的には、取扱量が昨年の約９割に留まり、単価においては、前年を１割上回る取引がなされた。これは、国産農林水産物の販売促進に関する施策である販売促進緊急対策事業により、コロナ禍においても、緑茶を中心とした販売が可能となったことや、通販や量販店による販売が、ある程度高まったことで、消費地問屋の在庫が減少したことによるものと思われる。

・各会場の取扱実績

場所	R２		R１		前年対比	
	数量	平均	数量	平均	数量	平均
東京			1,581	3,794		
静岡	140,756	588	147,432	474	95%	124%
京都	26,989	891	43,910	763	61%	116%
福岡	23,116	859	15,736	991	146%	86%
合計	190,862	664	208,659	600	91%	110%

東京・静岡・京都・福岡４会場合計

(2)新春初取引会(R3.1.6)

・点数	130点	(132点)	98%
・数量	11.3トン	(8.7トン)	129%
・平均	846円	(962円)	88%
高値	8,888円	(2,020円)	440%
安値	300円	(338円)	89%

※(　)は前年実績。価格は本茶のみ。

6．令和３年産茶に求められるもの

令和３年産茶については、茶買受人や消費者から求められる茶づくりを継続していく必要があり、生産においても、品質重視の生産、品質と量の価格バランスをみながらの生産、収量重視の生産、輸出向けや有機栽培、また、紅茶、ウーロン茶、碾茶等の特別茶を取入れた生産等、多種多様になっている。また、近年の緑茶の飲料形態は、消費支出額で比較すると、ペットボトル等の茶飲料での利用形態が約65%、リーフ茶での利用形態が約35%となっており、茶飲料での利用形態が増加傾向にある。また、ドリンクメーカーにおいても、さまざまな販売戦略がすすめられており、パッケージや水色へのこだわり、機能性表示等も多岐に渡り製品化されている。また、リーフ茶においては、利用形態が35%ではあるものの、上級茶にこだわった商品を買い求める声もあり、その中においては、上級茶への需要は低くはない。したがって、品質や買手のニーズに基づいた多様な原料の確保が求められていることから、鹿児島茶の特徴を活かしつつ、その年の生産体制を工場毎に十分協議し、また、「ちゃぴおんねっとシステム」をはじめとする、さまざまなシステムやＡＩを活用し、圃場管理体制、労働体制等を見直し、生産性の維持、向上を図る必要がある。

また、本年度はコロナ禍において、輸出やインバウンドが停滞したが、抹茶、有機栽培茶等の需要は高まっていることから、アフターコロナを想定し、海外展開やインバウンド需要等に対応できる生産や、本県で取組んでいる「かごしま茶輸出サプライチェーン」の取組み等を活用し、供給体制を業界団体一体となり実施する必要がある。

また、圃場管理については、継続して、最終摘採を考慮した摘採や適正な肥培管理、適期防除等、茶づくりの基本技術の順守や、安全・安心・クリーンなかごしま茶づくりの実践により、質、量ともに日本一の「かごしま茶」に向けて取組をすすめていく必要がある。

〔研究最前線〕

石灰窒素施用と土壌反転作業の組合せによる茶の省力管理技術

石灰窒素施用と乗用型土壌反転機の組合せで収量・品質が向上
うね間に多量の整せん枝残さが発生する更新時での活用も可能

農業開発総合センター　生産環境部

1．はじめに

摘採、整せん枝の繰り返しにより、うね間に未分解有機物が堆積した茶園が多くみられます。うね間土壌は肥料が施用される場所であり、ここに未分解の有機物が堆積すると、施肥効率の低下することによる収量・品質への影響が考えられます。また、温室効果ガスの一種である一酸化二窒素の発生が多くなることも環境上問題です。この対策として、石灰窒素等の利用による腐熟促進および土壌との混和が有効です。土壌混和についてはトレンチャー、クランク式深耕機を用いて深耕（深さ30㎝以上）する方法がありますが、茶樹の断根をともなうことや労力的に作業負荷が大きく敬遠されがちです。そこで、うね間に堆積した有機物の分解促進のための石灰窒素施用と断根による茶樹への影響を抑えた乗用型土壌反転機を組合せた省力肥培管理技術について検討しましたので紹介します。

写真1　通常管理園
（非更新茶園　前回更新から1年経過）

写真2　通常管理園のうね間土壌
（左；表層　右；深さ0−10㎝の土壌）

写真3　更新園

写真4　うね間土壌

（更新3カ月後　うね間）

2．乗用型土壌反転機械の特徴

近年開発されたM社製乗用型土壌反転機は、乗用型茶園管理機のアタッチメントとして、クランク式深耕機に用いられる「テコ鍬」を左右に装着したもので、１回の走行で茶園の左右のうね間土壌を深さ15㎝位置まで反転・混和できます。本県における一般的な茶園のうね間土壌には、深さ10㎝までに有機物残さが集積していることが多く、深さ15㎝まで反転できれば十分な分解促進効果が期待できます。また、従来のトレンチャーやクランク式深耕機を用いた深耕作業（深さ30㎝以上）と比較して、断根が少ないことから茶樹への影響も少ないことも特徴としてあげられます。ほ場作業時間は、トレンチャーやクランク式深耕機では10a当たり2.5時間～8.0時間かかりますが、乗用型土壌反転機では10a当たり24分程度で省力的です。

写真5　乗用型土壌反転機（左）と
反転後のうね間土壌（右）

3．試験方法

表1．試験区の構成

	試験区	夏肥1回目 一番茶後 (8)	夏肥2回目 二番茶後 (10)		秋肥 (10)	反転処理 (秋肥直後)	春肥 (15)	芽出し肥 (7)
通常管理園	有機配合無反転区(対象区)	有機配合	有機配合		有機配合	無	有機配合	硫安
	有機配合反転区	有機配合	有機配合		有機配合	有	有機配合	硫安
	秋石灰窒素無反転区	有機配合	有機配合		石灰窒素	無	有機配合	硫安
	秋石灰窒素反転区	有機配合	有機配合		石灰窒素	有	有機配合	硫安
更新園	有機配合無反転区(対象区)	有機配合	有機配合		有機配合	無	有機配合	硫安
	有機配合反転区	有機配合	有機配合	更新処理	有機配合	有	有機配合	硫安
	秋石灰窒素無反転区	有機配合	石灰窒素	二番茶後	石灰窒素	無	有機配合	硫安
	秋石灰窒素反転区	有機配合	石灰窒素		石灰窒素	有	有機配合	硫安

注1) 表中の(　)は施肥窒素量(kg/10a)で年間50kg/10a施用
2) 更新処理は二番茶摘採位置から−30cm位置で実施

試験は茶業部内の‘やぶきた’成園（昭和45年定植）を用い、三番茶まで摘採する通常管理園（非更新園）と二番茶後に更新する更新園で実施しました。

通常管理園では、秋肥として石灰窒素を施用し、直後に土壌反転処理を組合せる効果について検討しました。一方、更新園では、更新直後の夏肥２回目と秋肥の２回、石灰窒素を施用し、秋肥直後の土壌反転を組合せた肥培管理効果について検討しました。

試験区の構成は表１のとおりで、反転処理は通常管理園、更新園ともに深さ15cm位置で実施しました。また土壌条件は、本県の主要な茶園土壌の多腐植質黒ボク土壌で、試験開始時の土壌ｐＨ（H_2O）は3.0程度でした

4．収量・品質

通常管理園では、秋肥に石灰窒素を施用し、乗用型土壌反転機による土壌反転・混和を組合せると、施肥窒素の利用率が高まり、翌年の収量が多く一番茶品質が優れました（図１；上）

更新園では、石灰窒素を更新直後の夏肥２回目と秋肥に施用し、秋肥後に乗用型土壌反転機による土壌反転・混和を組合せると施肥窒素の利用率が高まり、翌年の収量が多く一番茶品質が優れました（図１；下）。

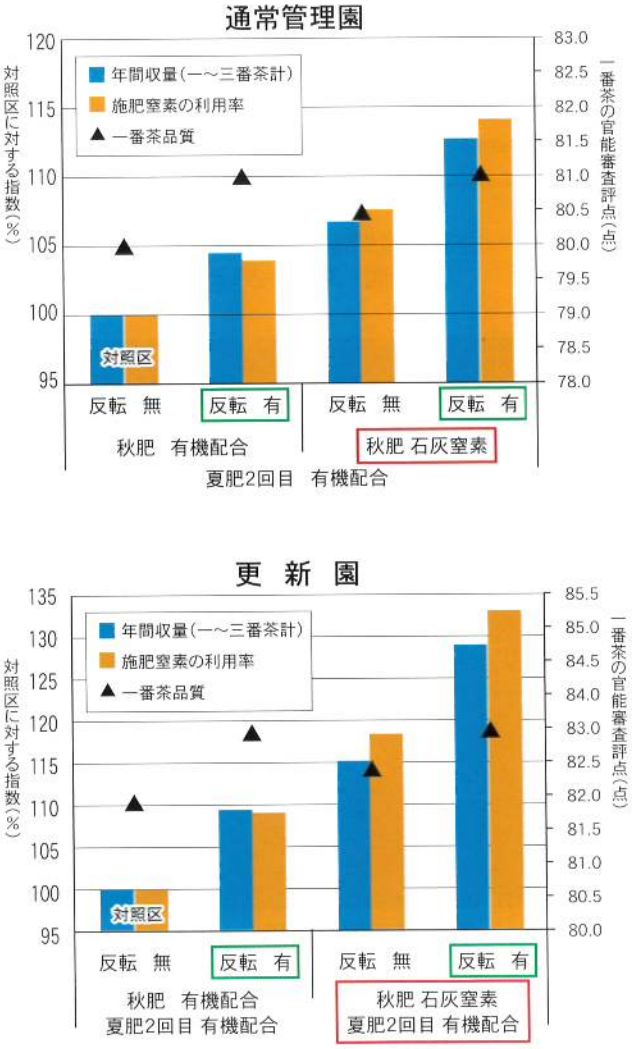


図1　収量と施肥窒素の利用率、一番茶品質
（通常管理園:上　更新園:下）

5．土壌への影響

石灰窒素施用、土壌反転・混和により、土壌pH(H_2O)が高まり土壌中の無機態窒素含量が多

くなりました（図2、3「通常管理園データ省略」）。

土壌pH(H_2O)が高まり酸性土壌が矯正されることで、土壌微生物活性が高まることや、反転・混和により有機物分解促進、施肥効率の向上が図られ、土壌中の無機態窒素量が増加したと考えられます。また、うね間土壌の白色根の増加がみられました（写真6）。これらの土壌環境の変化要因により収量・品質の向上効果が得られると考えられます。

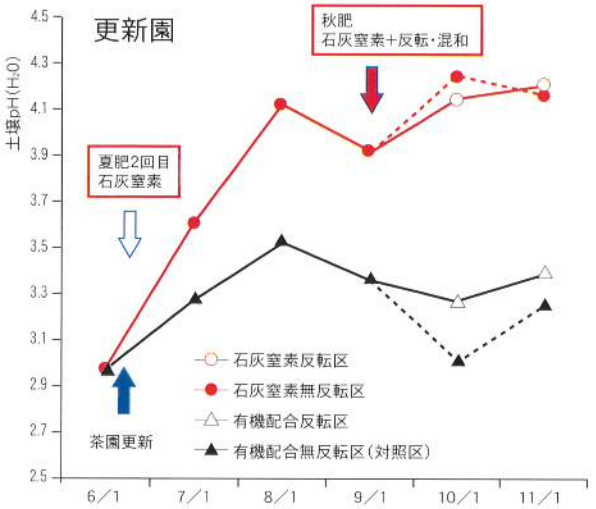


図2　うね間土壌pH(H_2O)の推移
（更新園　深さ0-20cm位置）

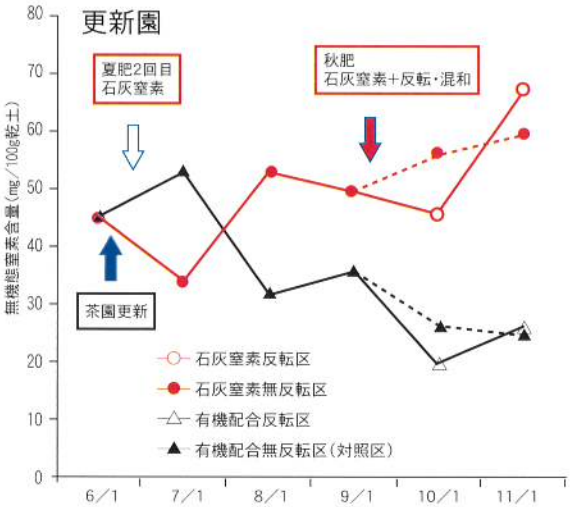


図3　うね間土壌中の無機態窒素含量の推移
（更新園　深さ0-20cm位置）

石灰窒素秋肥施用+土壌反転

有機配合秋肥施用+無反転(農家慣行管理)

写真6　うね間深さ15cm位置付近の根の状態農家実証事例(処理約2カ月後　11月)
石灰窒素秋肥施用+土壌反転の白色根量が多い(鹿児島県南薩地域振興局農政普及課　提供)

6．まとめ

石灰窒素施用と乗用型土壌反転機によるうね間土壌反転を組合せることで収量・品質が向上します。さらに、うね間に多量の整せん枝残さが発生する更新時での活用も可能です。管理方法としては、石灰窒素は通常管理園は秋肥として、更新年では、更新直後の夏肥２回目と秋肥の２回施用とし、反転処理は深さ15cmを秋肥後に実施します。ただし、連年反転処理は、根量減少による減収が予想されることから避けてください。

（生産環境部土壌環境研究室　中村憲知）

県茶生産協便り

茶販売促進緊急対策事業を活用して「かごしま茶」の販売促進を展開

（一社）鹿児島県茶生産協会

若者のリーフ茶離れや新型コロナウイルス感染症の拡大により、茶の売上げの減少や在庫の滞留が生じ、本年度産一番茶は記録的な安値となりました。

そこで、国がお茶の販売促進を緊急的に支援する事業を措置したことを受け、県内の産地では、会員の売上げの減少が少しでも軽減できればとの思いから、会員からお茶を買い上げ、地域イベントやホテル・企業等でお茶の試供品を配布するなど、会員の生産意欲向上と「かごしま茶」の魅力のＰＲによる認知度向上に取り組んでいます。

ここに、産地で制作した試供品を紹介します。

薩摩川内市一芯五葉会は、「煎茶」（100g）と「焙じ茶」（200g）を作成しました。

錦江町の大根占銘茶ふかみ会、田代緑香会は、「大根占茶」（50g）と「田代茶」（50g）、「ティーバック」（3g×18袋）の３点セット。

（薩摩川内市一芯五葉会）

（錦江町大根占銘茶ふかみ会、田代緑香会）

日置市茶業振興会、青年の会は、「煎茶」「ほうじ茶」を作成しました。

鹿児島市茶業振興会は、「緑茶のティーバック」（4g×12袋）と「ほうじ茶のティーバック」（4g×12袋）の２点セット。

（日置市茶業振興会、青年の会）

（鹿児島市茶業振興会）

志布志市茶業振興会は、「ほうじ茶ティーバック」（5g×20袋）を作成し、ふるさと納税返礼品への同梱もおこなっています。

県茶生産協会では「一番茶」、「さえみどり」、「ゆたかみどり」、「紅茶」、「べにふうき」（50g）、「抹茶スティック（2g）」を詰め合わせた飲み比べセットと、企業、旅館等配布用として「一番茶」、「さえみどり」、「ゆたかみどり」（200g）、「抹茶缶」（80g）の詰め合わせを作成しました。

（志布志市茶業振興会）

（県茶生産協会）

これらの取組が、「かごしま茶」の認知度向上につながり、ひいては消費拡大につながることを期待しています。

令和2年度地区別検討会を開催（後編）

「儲かる茶業経営」を実現するための方策について、お互いに検討する地区別検討会を11月開催しましたので、出された意見を紹介します。

1．南薩地区

【開催日】　令和２年11月４日（水）

【講　演】　「今後の茶業を展望する」
鹿児島製茶㈱　代表取締役　森 裕之氏

【検討会で出された主な意見】

① 粉引き３％を見直して欲しい。
② 茶市場取引の見本茶の量300gは減らせないのか。
③ 鹿児島県でもコロナにお茶が効くという研究に取り組んで欲しい。実証されればお茶の消費が伸びる。

2．曽於地区

【開催日】 令和２年11月９日（月）

【講　演】「30年前と今と10年後」
株式会社 坂上種苗　坂上会長

【検討会で出された主な意見等】

① 夏茶をペットフードに使用するとか、飲む以外にいろんな活用があるので、大学、民間に研究費を出して開発してほしい。
② 茶市場では品質の良い茶は高く評価されるが、それ以外は厳しい。最低価格の設定はできないのか。
③ 辞められない茶工場対策、大型負債農家への速やかな支援をしてほしい。
④ 地域社会を活性化するために結婚対策もお願いしたい。
⑤ 再生産可能な価格、市場手数料、生産者会費等市況情勢に見合った協議をお願いしたい。

3．姶良・伊佐地区

【開催日】 令和２年11月18日（水）

【講演】「茶市場の役割と流通の合理化に向けて」
生産協会　佐藤 技術アドバイザー

【検討会で出された主な意見】

① 流通、在庫状況がどうなっているのか、意見交換の場がほしい。
② お茶の入れ方教室は、保護者にも実施してほしい。
③ 債権補償制度を活用した流通の見直し。
④ 粉引きをどうにかして欲しい。

4．北薩地区

【開催日】 令和２年11月19日（木）

【検討会で出された主な意見等】

① 粉引き問題は引き続き要望する。
② 三番茶の自粛を行ったが、足並みが揃っていない。
③ 債権補償事業の積立金の原資は生産者が積み立てたものだが、農家の支援のために使えないのか、目的外に使ってはいけないのか。

※出された会員の意見等の取扱については、理事会で判断し対応してまいります。

県茶商協便り

池田前茶商協理事長が旭日双光章受章

鹿児島県茶商業協同組合

令和２年秋の叙勲において、鹿児島県茶商業協同組合前理事長で池田製茶㈱会長の池田耕一氏が、長年にわたり茶業界の発展に貢献されたことが評価され、「旭日双光章」を受章されました。

池田製茶㈱会長
池田耕一氏

同氏は昭和47年４月池田製茶㈱に入社後、昭和61年４月に同社社長へ就任され、平成27年12月後継者の長男に社長の座を譲り、同社会長として側面から会社経営を支援し現在に至っています。

この間、良質で信頼される茶づくりをモットーに、県内外の取引先の拡大に取り組み確固たる地位を築いてこられました。

さらに、平成29年には米国に現地法人を設立して新しい取引先の開拓を推進したり、令和２年３月には隣接地に抹茶工場を完成させる等、消費者の様々な要求に応えられように幅広い商品構成で売り上げ増加に繋げ、今後もさらなる発展が期待されています。

また、ベトナムから技能実習生を受け入れる等、斬新的な発想と行動力で時流に沿った事業経営に取り組み、県内茶業界の先駆的存在となっています。

なお、昭和63年３月に当組合理事就任以来、平成31年３月までの30年余りを組合運営に携わってこられました。この間、平成25年３月より３期６年間は理事長として「かごしま茶」の取引拡大を目指し、県外向け販売会や各種イベントにも率先して取り組まれました。

さらに、茶商協理事長在任時は、公益社団法人鹿児島県茶業会議所の副会頭として、県外向けの取引拡大に力を注ぎ「かごしま茶」の知名度アップに寄与されたり、海外向けに官民一体となった輸出対策実施本部の設立に寄与されました。

また、日本茶業中央会や全国茶商工業協同組合連合会の要職も歴任され、国内茶業界発展の一翼を担ってこられました。

このように、長年茶業界発展に係わり大きく貢献されてきたことが、今回の受章に繋がったものとお慶び申し上げます。

なお、今年は、新型コロナウイルス感染拡大が続き終息の兆しが見えない為、農林水産省及び皇居での叙勲伝達式及び拝謁式は中止された為、賞状等は11月25日（水）に鹿児島県農政部より同社で授与されました。

~*~

【職　歴】	・池田製茶㈱入社		昭和47年 4月	
	・　同　代表取締役社長		昭和61年 4月	
	・　同　代表取締役会長		平成27年12月	
【民間団体歴】	① 鹿児島県茶商業協同組合	理事	昭和63年３月～平成15年３月	
	同	副理事長	平成15年３月～平成25年３月	
	同	理事長	平成25年３月～平成31年３月	
	② 鹿児島県茶業団地協同組合	副理事長	平成15年３月～平成31年３月	
	③ （公社）鹿児島県茶業会議所	副会頭	平成25年４月～令和元年 ５月	
	④ 全国茶商工業協同組合連合会	副理事長	平成25年６月～令和元年 ６月	
	⑤ 鹿児島県中小企業団体中央会	常任理事	平成26年５月～令和元年 ６月	
【賞　罰】	① 鹿児島県中小企業団体中央会	会長表彰	（組合功労）	平成17年 5月26日
	② （公社）鹿児島県茶業会議所	会頭表彰	（組合功労）	平成22年11月14日
	③ （公社）日本茶業中央会	会長表彰	（茶業功績）	令和 2年10月 5日
	④ 九州中小企業団体中央会連合会	会長表彰	（組合功労）	平成26年 9月 4日

アメリカお茶市場トレンド便り

在米コンサルタント

ロサンゼルスを拠点に活動しておりますナチュラル・プロダクツ業界専門のコンサルタントKentreeの溝呂木（みぞろぎ）です。現在ロサンゼルスを拠点に活動、情報発信をしています。

新年あけましておめでとうございます。

コロナ渦、昨年11月からの大統領選挙ではバイデン派かトランプ派かというところで国民が大きく二極化しました。この記事が出るころにはアメリカの大統領が正式に決まっていると思います。

個人的に気になったのはどちらが勝つとどのような影響がでるかということだけでなく、AがいいかBがいいかという二択の意見を持つようになりやすい世の中になってきているということでした。

アメリカでもある論調や意見また選択肢があったときにどちらかを選ぶというYesかNoかをはっきりするという社会的な素地があるからではないか。そこにデジタル社会になってより二極化しやすい傾向になっているのではというようなことを考えていました。

日本では忖度が流行語にもなっていますがよい意味での中庸ということについて思いを巡らしています。皆さんはどのように考えますでしょうか？

さて今回の３つの記事を取り上げました。１つ目は、教育デバイド（インドにおける農村のデジタル教育格差）の解消に貢献する茶商「Vahdam teas」の活躍です。ギフトにもピッタリの洒落たパッケージで思わず試したくなりました。日本でも販売しているようですのでご興味あれば検索してみてください。

２つ目はアメリカでの食品の輸入に関する規制（運用面での）強化についてです。弊社も今年後半に輸入者及び米国代理人としてＦＳＶＰの査察を受けました。質問があります方は会議所経由で私へお問合せください。

３つ目は全米お茶協会のゴッジ会長他アメリカのお茶業界のオピニオンリーダー達のコメントを紹介しています。お茶業界が直面する課題と打開へのヒントやアイディアを得られる記事かと思います。

それではアメリカ市場のそれぞれの記事の紹介となります。

茶園の子供にデジタル学習支援

アーロン・キール著　2020年9月30日

プレミアムティーとスーパーフードのブランドであるインドのVahdam Teas(ヴァダム・ティー）は、４歳から18歳までの学生を対象にしたオンライン学習プログラムのBYJU'S(バイジューズ）と提携し、インド各地の茶園労働者の子供たちを支援することを決定。９月からダージリンにある10か所の茶園で開始し、ヴァダムの福祉活動である「TEAch Me」を通じて1,000人以上の子供たちをサポートしている。

「TEAch Meの活動では、茶業界にいる学習の困難な状態にある子どもたちの教育を向上する方法を常に模

索しています」と、ヴァダムの創業者兼ＣＥＯであるBala Sarda(バラ・サルダ）は述べる。「質の高いデジタル教育へアクセスできるかどうかは格差を生み出す要因のひとつとなります。教育には高額な費用がかかり、学校のインフラには限界があるためです」

学年末までに、20か所の茶園で2,000人以上の子供たちを支援する予定とし、2025年までに、インドのあらゆる茶生産地域で５万人の子供たちをサポートすることを目指す。

今回の提携により、ヴァダムは、茶園労働者の子供たちが質の高い教育を受けられるよう、スマート端末の供給とその接続環境を整えることに注力するとしている。

ヴァダムはインドのトップ投資家から1,700万ドル以上の資金調達を行い５年前に設立された。ヴァダムのTEAch Me活動は2018年に開始され、収益の最低１％を茶園労働者の子供たちの教育に充当している。

原題：Empowering Children of
Tea Estate Workers Through Digital Learning（抜粋）

お茶ビジネスで知っておくべきコンプライアンス

スコット・スビフラ著　2020年10月7日

コンプライアンスは、お茶関連のビジネスを運営する上でますます重要となり、全国のお茶関連の会社では、FDA(米国食品医療局）による現場施設の監査が増加している。

食品の製造（茶の製造もこれにあたる）に関する見直しや、新たに法律が追加されたことなどを受け、FDAはFSMA(食品安全強化法）の規制をより厳しく執行していくものとみられる。

コンプライアンスに違反する企業はFDAの監査人に召喚されるが、重大な過失がある場合や人体に害を与える可能性のある主要な食品安全問題がない限り、遵守までに通常15日間の猶予が与えられる。

またFDAはFSVP(外国供給業者検証プログラム）に対する取り締まりもより強化し、昨年、警告文を５件発行したのに対し、2020年は31件以上発行している。

USDAオーガニック認証については、2019年12月27日に新しくオーガニック香料についての法律が施行されたことにより、多数の企業が茶のオーガニック認証を失効している。これにより使用される香料はすべてオーガニック認証を受けたものでなければならないとされている。また、2021年に向けての新たな法律が承認された場合、オーガニック認証を受けた製品を米国に輸入して販売するためには、追加の事務手続きや規制が必要になる可能性がある。

コンプライアンスの世界は刻々と変化し、新たな法令が採択され、既存のものは修正される。コンプライアンスを確実にするためには、これらのすべての変化を見逃さないことが不可欠である。

フラ・コンサルティングのオーナーであるスコット・スビフラ氏。ワールド・ティー・バーチャル・サミット内で、「法規制コンプライアンス：知っておくべきこと ＋2020年の最新情報」と題した彼のセッションでコンプライアンスに関する質問に答える。

原題：The World of Regulatory Compliance Is Ever-Changing
– What Tea Businesses Need to Know（抜粋）

今、茶業界で最も重要な問題とは?

アーロン・キール著　2020年10月14日

現在の茶業界で最も重要な課題は何か？

持続可能性？透明性？専門小売店の衰退？それとも消費者へのスペシャルティ・ティーの普及をはかること？

このシリーズの第一弾として、ワールド・ティー・ニュースでは、業界を代表する専門家やインフルエンサーの意見をご紹介します。

ピーター・ゴッジ：会長／全米茶協会

お茶の市場は４つの重要な問題に直面しています。

1）供給が需要を上回り続けていること

2）国際貿易がサプライチェーン全体の課題となっていること

3）お茶の健康効果を利用しきれていないこと

4）持続可能性について

中でも持続可能性は、環境、社会、経済の３つを柱とした戦略として捉えることができますが、とくに経済活動における持続可能性が現在の最大の脅威となっています。インフレを考慮すると、茶の実勢価格は1950年代から変化しておらず、生産者は厳しい状況を強いられています。大手小売業者に恩恵が偏るのではなく、サプライチェーンに関わるすべての人が公正な仕事の対価を受け取るようにしなければなりません。

そのためにはスペシャルティ・ティーのように品質や独自性、また産地をめぐる「物語」をうまく価格に反映させたビジネスモデルを茶のサプラチェーン全体でどのように適応していくかが課題です。

シャーリン・ジョンストン：
CEO／オーストラリア・ティー・マスターズ

茶のビジネスでの最も重要な課題は、その透明性です。

カフェやレストランで茶を飲む人には、イングリッシュ・ブレックファストやペパーミント、カモミールが入った粗悪なグレードの10セントのティーバッグではなく、より品質の良いものを提供する必要がありますが、実際には消費者に提供されるのは低品質の茶であり、選択肢もほとんどありません。

品ぞろえが豊富なスペシャルティ・コーヒーのように、「今日はどんな種類の茶がありますか？」と質問できるよう、消費者に知識を普及させる必要があります。

教育、生産者、原料、原産地、製造、人工香料を使わないこと、サービス、淹れ方、シンプルさなどが秘訣となります。私たちは消費者に茶を広める努力をし、良質な茶の提供、そして良質な茶の知識で茶のコミュニティをサポートすることが成功の鍵となります。

ケビン・ガスコイン：
代表／カメリア・シネンシス・ティーハウス

先の読めないビジネス環境の中で、新たな挑戦に絶え間なく立ち向かうことが何よりも大切です。長年かけてゆっくりと育てた既存のビジネスモデルが、一晩で時代遅れになり苦境に立たされていることに、ただ文句を言いながら待っているだけではいけないのです。急な変化が訪れることに備えてください。

これまでも茶は危機とともに歩んできました。顧客はおそらくこれまで以上に茶を必要としています。

リディア・クン：
輸出入専門家／ヴェリリーフ・トゥルー・ティーズ

消費者がさまざまな茶に親しむようになるにつれ、製品に関する正しい知識が全体的な体験を向上させるために不可欠になります。

私たちの目標は、一杯の茶を飲むことによる体験を、より実効性があるものにすることです。茶の加工の意図や、加工法の違いが味にどのような影響を与えるのかといった知識が茶の飲み方を高めるのです。

また、従来一つの場所、一つの茶に関連付けられていた品種が、何千キロも移動して別の種類の茶になるとどうなるのでしょうか。その体験は、ひとつの味という側面から、茶葉の可能性や作り方を含んだより広い文脈へと拡大することができます。感覚的な体験を広げる活動を行うことは、スペシャルティ・ティーを提供する者としての責務です。その結果、初心者であっても少しの知識があれば想像力次第で、茶を評価するだけでなくその理由まで理解できるようになるでしょう。

リンダ・バーベリック：
ティー・デザイナー／ソマ・ティー

ハーブ療法は、今日の代替医療の重要な構成要素であり、我々の文化の中で最も急速に成長している市場の一つです。西洋医学は現在、ハーブサプリメントや多くの自然で健康的な代替品を受け入れる移行期にあります。どのハーブがトレンドであり、またそれをどのように茶やハーブティーにブレンドするかが鍵になります。

マリア・ウスペンスキー：
創立者兼CEO／ザ・ティー・スポット

現在のプレミアムティー業界で最も深刻な問題は、専門店の衰退だと思います。

私たちが専門店にアドバイスするとすれば、既存のビジネスモデルに境界線を設けず、あらゆることへの検討に積極的になることです。

このコロナウイルスによる混乱の数年前から、オフラインで実店舗を構える店の業況は悪化していましたが、今年は専門店にとって特に厳しい状況です。

迅速に対応できない業者は、コロナウイルスにより深刻な経済的ダメージを負う可能性があります。

破産による債権者保護を申請したDavid,s Teaは、オンライン販売へ強硬に舵を切り、第３四半期を黒字にしました。

原題：Tea Experts Discuss the Most Important Industry Issues – Part One（抜粋）

（詳しくはブログにて）
https://www.dropbox.com/sh/riha1uprrkyovgq/AABjFhcSkS5h39ERR5H9zVdBa?dl=0

（オンライン市場の定点観測）

Amazon（米国）の緑茶部門のベストセラー
2020年12月15日現在

	内容量	売価(ドル)	内容量
1	Ito En Oi Ocha	20.48	500mlペットボトル、12ボトル
2	Bigelow Green Ginger Plus Probiotics	20.94	ティーバッグ、108袋
3	Celestial Seasonings Decaf Green Tea	69.98	Kカップ、96個

（注）緑茶、抹茶のみを記載、紅茶、ブレンドティー、ハーブティーなど他のお茶は省略

事務局便り

最近の動き（11月～）

鹿児島県茶業会議所

かごしま茶宣伝販売求評会

（11月18日～20日、静岡、京都、福岡）

県外での販売求評会が開催されました。例年は、東京での開催を皮切りにスタートするのですが、コロナ禍の中、東京での開催は中止となりました。販売状況は、会場により変動はありましたが、前年を若干上回る販売額となりました。

令和３年度事業計画検討会

（12月17日　アートホテル鹿児島）

茶業会議所の会員である各機関・団体の役員等の参加の下、令和３年度の事業計画案の検討が行われました。柚木会頭より、「コロナの終息は不透明であるが、かごしま茶の知名度アップや販路拡大・消費拡大のために、本県の茶業界一丸となって取り組んでいくことが肝要。」とあいさつがありました。

日本茶業中央会六団体長会議

（12月18日　Web会議）

日本茶業中央会の組織活動等の検討がオンラインシステムを使ったＷｅｂ会議方式で実施されました。柚木会頭が参加されました。

～＊

～ 日本茶業体制強化推進協議会からのお知らせ ～

国内外の消費者に向けた日本茶の情報発信ポータルサイト「日本茶ドア」の新規登録者募集中!!

日本茶業体制強化推進協議会（事務局:（公社）日本茶業中央会）では、令和２年度の農林水産省の助成を受けて、国内外の消費者に向けてさまざまな日本茶の関連情報を登録・検索できる情報発信ポータルサイト（名称:「日本茶ドア」）をお茶関係機関・団体のご協力を得て、10月12日より公開（URL: https://www.nihon-cha.or.jp/door）し、引き続きコンテンツの充実・強化を図るとともに、新規登録者の募集も実施しております。

新規登録には、「日本茶ドア」のトップページの右端にある「新規登録申請」のバナーをクリックいただき、必要事項を記載して送信いただくだけです。

掲載内容の変更・更新は、通知ＩＤを用いて登録者の方々ご自身でお願いするシステムとなっております。登録料は無料です。

以上、奮って新規登録いただけますようよろしくお願いします。

【お問い合わせ先】
日本茶業体制強化推進協議会
事務局（公社）日本茶業中央会　中村、中島
TEL:03(3434)2001、FAX:03-3459-9518
メールアドレス: nakamura@nihon-cha.or.jp